



ララガーデン春日部

1981年、千葉県船橋市に「ららぽーと TOKYO-BAY」をオープンして以来、ららぽーとマネジメント株式会社様は、さまざまな大型商業施設を運営管理しています。その数は、現在全国に約40施設。単なるショッピングセンターではない、SC業界のリーディングカンパニーとしての新しいコンセプトは、時代や地域のニーズをとらえたその魅力で多くの話題を呼んできました。今年4月にオープンする、日本最大級のアウトレットモール「三井アウトレットパーク入間」に続き、2010年までには60施設への拡大展開が予定されています。

<http://www.laport.co.jp>



総務部総務課長の村澤和寿さん。「危機管理対策用のインフラ整備は、運用方法やコスト、事業規模や業態なども含め多方面からの検討が必要です」



三井アウトレットパーク 入間

User's Report

大規模商業施設の 防災対策を mcAccess e がサポート

ららぽーとマネジメント株式会社様

本社所在地 / 千葉県船橋市浜町2-1-1 5らぽーと三井ビルディング4F
TEL / 047-431-7101 mcAccess e 導入時期 / 平成19年1月 契約台数 / 39台
(平成20年4月1日現在)

パブリックスペースと同様の 防災視点を求められる商業施設

「ららぽーと TOKYO-BAY」をはじめ、郊外型大規模ショッピングセンターや地域密着型の「ライフスタイルパーク」、アウトレットパークや都心商業といった多数の商業施設運営を行うららぽーとマネジメント株式会社様。

ショッピングだけでなくアミューズメントやコミュニティ要素を担う空間を提供する商業施設について、「不特定多数の人が集まるという意味では、単なる大型店舗ではなく、駅などのパブリックスペースと同様の危機管理が必要と考えています」と話すのは、総務部総務課長の村澤和寿さん。

親会社でありデベロッパーでもある三井不動産株式会社との連携により災害対策に取り組む中、近年急速かつ全国的に施設が増え、物件数に対応する最適な通信システムが検討されました。そして、平成19年1月に災害時の通信手段として全国的に mcAccess e が導入されたのです。

mcAccess e の一斉通信で 多くの施設と情報共有が可能に

防災のためのインフラ整備として、すでに衛星電話やイリジウム携帯電話も利用し、重要ラインには一部専用回線電話も導入されています。

「衛星電話やイリジウムは、ほとんど地上の設備を使用していないため地震等には強いのですが、コスト面や、使用する場所の制限の問題がありました。一方、mcAccess e は地上の設備を使用していますが、過去の災害時に自治体等で活用された実績があります。コスト面や運用方法のトータルで判断し、mcAccess e 導入を決めました」と、施設管理部品質管理課長の 大野浩さんは説明します。

災害時に設置される対策本部では、現場から被災状況の報告を受け、三井不動産をはじめとするデベロッパーへ報告、さらに各施設に指示を出すという



年2回の防災訓練ではmcAccess e をメインに使用し、なるべく多くのスタッフが使い方を覚えるように交代で訓練をしているほか、毎月抜き打ちの連絡・報告訓練も各施設に対して行っています。

mcAccess e の「一斉通信」機能が
お客様を守る防災対策の要に ユーザーレポート

POINT

mcAccess e いろいろ効果

- ◆ 初期コストおよびランニングコストが割安
- ◆ 全国にある商業施設受託物件との個別通信が可能
- ◆ 中継局が多いため通信可能エリアが広い
- ◆ 地震等の緊急事態発生時に、本部からの一斉発信が可能



防災訓練時は、無線機を並べた臨時会議室に全国の施設を網羅したホワイトボードを設置した本部で、一斉に各施設からの報告をとりまとめます。

一連のやりとりが発生します。「大規模災害時は、全国の複数の施設と一挙に交信しなければなりません。情報を吸い上げ、共有しフィードバックする双方向の動きの中で求められる機能を追求しました」(大野さん)。

お客様を守るために欠かせない 綿密なシミュレーションと防災訓練

「多目的コンセプトでの大規模な集客をあえて行っているわけですから、お客様の安全を確保することは施設運営管理会社としての使命です」と村澤さん。来場者が数万人にも及ぶ郊外型施設も数多い中、各施設ごとに帰宅困難者のシミュレーションを行っています。例えば、休日の12時に被災した場合、各館内にお客様は何人いて、車で来ている方はどのくらいか、そのうち10 km以上遠方から来ている割合は.....など、情報は細かく分析されています。

しかし、どんなに万全に災害対策をしても、発災時にシナリオ通りいかないことは十分想定されます。そのため、ららぽーとマネジメント様では、毎月1回ランダムに選ばれた施設との連絡・報告訓練と、年2回(1月17日と9月1日)大規模な全社防災訓練を実施しています。「現場の担当者だけでなく、誰でも無線が使いこなせるようにしたい」(総務部総務課 河野康二さん)と現場の意識は非常に高いものがあります。

また、混乱する被災現場では、建物被害、エレベーター内の閉じ込め、火災状況など必要な情報をより正確に受報することが重要です。「mcAccess e なら情報を共有し相互にフォローできるので、たとえ聞き間違いや勘違いする人がいたとしても、ミスを補うことができます。被災時は交信時にメモをとれないこともありますが、複数人が同じ内容を聞けるメリットは大きいでしょう」(大野さん)。

綿密なシミュレーションと訓練を重ね、お客様の安全を第一に考え、有事に備えるららぽーとマネジメント様。その防災対策をサポートする mcAccess e もまた着々と進化しています。

◆ユーザーさんの声◆
こんな意見がありました!
今後の展開として次のようなご要望をいただきました。

FAXが使えなくなったとき、mcAccess e で文字情報を送りたい。



現在、スキャナプリンタ ノートパソコン
mcAccess e 無線網でのスキャン
グデータの伝送システムを開発中です。